

平成30年11月21日

総務部防災課

平成30年度秋の避難所総合訓練の実施結果について

1 実施日時等

- (1) 日 時 平成30年10月28日(日) 午前10時から12時まで
- (2) 場 所
大塚小学校 校舎及び体育館
- (3) 参加者……………223名
 - ① 区民防災組織……………51名
 - ② 区民(体験型訓練参加)……………95名
 - ③ 学校職員・PTA……………14名
 - ④ 防災関係機関等(医師会・薬剤師会・歯科医師会・獣医師会・消防署・消防団
・警察署・手話会・アマチュア無線・日本郵便) 46名
 - ⑤ 区職員(災害対策本部員含む)……………17名

2 訓練テーマ

訓練テーマは「要配慮者」とし、以下の訓練を行った。

(1) 避難所開設キットによる初動対応訓練

今年度の総合防災訓練より避難所開設キットを導入し訓練を行った。キットには初動対応として、発災から3時間を想定した行動手順書が入っており、避難所運営協議会スタッフはその行動手順書に沿って避難所開設及び運営に必要な行動を確認した。訓練を行う過程では行動手順書をより使いやすくするための内容や掲示物の効果的な貼り出し方などの改善点等も検討しながら訓練を行った。

(2) 避難行動要支援者安否確認訓練

民生・児童委員を中心に災害時における避難行動要支援者の安否確認訓練を行った。訓練は民生・児童委員及び協議会スタッフが避難行動要支援者名簿登録者の参集状況を確認したところ受付名簿に名前がなく、連絡も取れない状況を想定の下、実際に自宅(校庭に設置した模擬家屋)に訪問し要支援者の安否を確認後、避難所受付までの誘導を行った。

(3) 受付における多言語対応

想定される外国人の避難者に対して、区災害時専門ボランティア(英語、中国語等)が避難所の受付に常駐し、名前等の記入方法や適切な避難所等への案内及び誘導を行った。

(4) 要配慮者疑似体験

日常生活において要配慮者が身体的に感じる負担を疑似体験するコーナーを設け

た。今回の訓練では高齢者擬似体験セット及び妊婦体験ジャケットを協議会スタッフ及び見学者が体験した。

(5) ペット飼育コーナー

文京獣医師会指導のもと、避難所におけるペットの飼育方法等について周知を行った。併せて、備蓄してあるペットゲージを協議会スタッフが実際に組み立て、使用した。

(6) 要配慮者スペース確保訓練

避難所において想定される要配慮者スペースを確保する訓練を行った。内容については、居住スペースにおけるダンボールベッドの作成、施設内の要配慮者スペースの設定、更衣室や授乳室用プライベートテントの展示及び子供遊び場スペースの設定など、避難所において配慮すべき項目等について周知した。

3 訓練内容

(1) 避難所運営訓練

避難所運営訓練、体験型訓練の二つに分けて実施する。

なお、避難所運営訓練においては、避難所開設キットを使用し、訓練を行う。

ア 初動対応訓練

- ①避難所の正門を開錠
- ②備蓄倉庫から備品取り出し
- ③防災行政無線機を活用した災害対策本部への連絡（区職員到着メール）
- ④受水槽の確認
- ⑤避難者の待機、誘導
- ⑥施設内のライフラインの確認
- ⑦トイレの使用可否確認及び準備
- ⑧施設内の安全点検
- ⑨防災行政無線機を活用した災害対策本部への連絡（避難所開設可能メール）
- ⑩土足禁止スペースの特定
- ⑪本部及び班編成

イ 各班訓練（初動対応終了後）

- ①運営本部班
 - ・避難所本部開設
 - ・施設内の利用計画策定
 - ・避難所運営ルール規定及び周知
 - ・避難行動要支援者安否確認訓練
- ②総務情報班
 - ・受付訓練
 - ・災害時特設公衆電話設置訓練
 - ・外国人対応

③避難者援護班

- ・居住スペース確保訓練（段ボールベッド）
- ・プライベートテントの設営
- ・要配慮者用スペース設営訓練
- ・要配慮者擬似体験（文京区社会福祉協議会）
- ・ペット飼育コーナー（文京獣医師会）

④救護衛生班

- ・救護所設営訓練
- ・避難所内の衛生管理
- ・医師のトリアージ補助
- ・応急手当（三角巾、包帯による止血法・固定法）
- ・トイレ設営訓練（マンホールトイレ・簡易トイレ）

⑤給食物資班

- ・照明機材の保管場所確認
- ・炊き出し訓練
- ・受水槽からの給水訓練
- ・応急給水用スタンドパイプの組み立て

(2) 体験型訓練

発災時に想定される状況の初期対応を体験した。

- ① 消火訓練（消火器、まちかど防災訓練車、D級可搬ポンプ、スタンドパイプ、街かど消火ハリアー）
- ② 起震車・煙体験ハウス
- ③ 防災体験ツアー
- ④ 応急救護訓練（AED取扱い、心肺蘇生法）

(3) 展示ブース

- ① 小石川消防署・消防団
- ② 大塚警察署
- ③ 日本郵便株式会社
- ④ 文京区アマチュア無線局災害非常通信連絡会
- ⑤ 文京区役所（防災課、地域整備課）

4 参加者意見（検討会及び訓練中の意見）

【避難所開設キットについて】

- ・キットの手順書通りになんとか行動できた。
- ・実際にキットを使用してみて、より多くの掲示物が必要であると感じた。
- ・サブリーダーとして決定してから補助するのか、最初からサポートするのか戸惑った。
- ・テープ、マーカー等の備品が複数必要であると感じた。

- ・キットを使った開設訓練をまめにしていけたら良いなと思う。
- ・本部班において行った避難スペースの検討が難しかった。

【訓練全体について】

- ・もう何回か同じ訓練をして、マスターしたい。
- ・訓練を通じて未解決なことも多いと感じた。
- ・民生委員として身体が不自由で避難所まで行けない方、食料・水を確保していない方々、避難所を確認してない方々と日頃から話し合い、見守る事が大切と感じた。
- ・外国人対応では「何語が話せますか？」(英語等の表記で)という質問の書かれた紙(プレート)で案内できると適切な通訳担当の方にお問い合わせできると思った。

【防災課より】

キット最大のメリットは、今回のように出た意見を次に生かすことができるという点にある。そのため今回あがった検討事項を再度見直して、行動手順書を更新し、より使いやすく分かりやすいものにして共有を図りたいと思う。

今回は「要配慮者」をテーマに設定し、訓練を行った。避難所には高齢者、妊婦の方等、様々な方が避難してくることが予想される。そのため、スペースの確保、対応方法等を今後も継続して訓練を行っていくことが必要だと思う。来年は皆さんが主体となって訓練を実施していただきますようお願いしたい。